



シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景②

～先端技術・科学技術の研究開発～

◇ 先端技術や科学技術の集積地としての側面を持つシンガポール

- ・ 金融や貿易などのイメージが強いシンガポールですが、GDP に占める製造業の割合は2020 年時点で 21.5%と、日本（20.5%：2019 年）と同程度の水準にあります。
- ・ シンガポールには、電子製品やバイオ技術などの先端産業をはじめとした世界各国の名だたる製造関連企業が研究開発拠点を構えており、政府機関・大学・大企業・金融機関などによる活発な産官学連携のもと、日々新たな製品/サービスに対する研究が行われています。
- ・ こうした企業が集まる背景には、政府主導でこれらの産業のエコシステム形成に注力している点が挙げられ、新規参入と投資が絶え間なく続いています。



① 多くのスタートアップが入居する公営のコワーキングスペース



② 世界各国から進出している大企業の研究開発部門が軒を連ねるエリア

◇ ここがすごい！

- ・ シンガポールでは、レギュラトリーサンドボックス（規制の砂場）と呼ばれる、新製品/サービスに対する一時的な規制緩和制度を活用して、様々な実証実験が行われています。
- ・ マリーナベイサンズのすぐそばの金融街では、自動運転の飛行タクシーの実証実験が行われるなど、日本ではなかなか見られない光景に出会うことができます。



③ ドイツスタートアップのボロコプター社の自動運転型飛行タクシーの実証実験の様子

2021 年 8 月 2 日作成

西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所